

武田 正樹議員 清流クラブ

木曽川と筏川の安全性の確保を

どう取り組まれるのか。

災害対策が必要と考えており
今後事業推進を図っていく

- 問**
- (1) 木曽川左岸堤の本市部分の現状について、堤防の高さや幅は不足していないか、洪水などによる侵食から堤防や河岸を保護するための対策はとられているのか、浸透に対する安全性を確保するための対策はとられているか。
- (2) ①木曽川の河川整備計画において、洪水・高潮などによる災害の発生防止または軽減に関しての目標はどの程度か。
- ②防災対策についてはどう取り組まれるのか。
- (3) 筏川について、地盤沈下が進み、流下能力、排水能力も低下しているが、現状はどうなっているのか
- (4) 特に筏川右岸の整備がやや遅れているように思うが、今後の整備計画について

- 答** 開発部長
- (1) 木曽川下流河川事務所によると、堤防整備及び浸透対策は、構造物付近を除き実施済みである。鍋田川上水門は現在整備中である。
- (2) 木曽川下流河川事務所によると、①木曽川水系の河川整備計画に基づき、洪水は戦後最大となる昭和58年9月の洪水と同規模の洪水が発生しても安全に流下させること、高潮は満潮時に伊勢湾台風が再来した場合の高潮による災害の発生を防止すること及び伊勢湾台風後に整備した高潮堤防が広域な地盤沈下の影響を受けたため、高潮堤防の機能回復を目標としてしていると聞いている。

- ② 河川防災ステーションの整備や橋梁と堤防天端間の通行対策などのハード整備に加え、中日本高速道路株式会社との「災害時の河川堤防等の復旧のための高速道路区域の一時使用に関する協定」の締結や高潮・洪水時における広域避難の実現に向けた検討などのソフト対策についても推進しているところである。
- (3) 筏川は木曽川の派川であったことから、基本的に河道が広く、河川自体の流下能力が高いため、これまで河口の樋門や排水機場などの治水施設の整備、護岸工事を中心に行ってきた。
- また、流域では洪水防除事業による内水ポンプの設置及び増強が行われている。そのため、治水上の問題はおおむね解消されつつある状態まで来ているが、近い将来発生が予想される東海・東南海・南海地震への対策など、その治水機能

を確保するための対策が今後必要と考えている。

- (4) 27年度の県の単独土地改良事業予算を活用して整備を進めるということで、6月議会で補正予算をお願いした。森津橋から海南橋の区間1千670メートルの筏川右岸堤防の舗装と水路側のり面のコンクリート張り及び防草シートの設置を行い、堤防の補強及び雑草の繁茂の抑制を行い整備していく。

また、28年度以降も県に對して予算要求を行い、事業推進を図っていきたい。

食料の安定供給の確保に向けて市に考えを尋ねる

問

- (1) 農産物の出荷量、販売額の推移について把握しているか。
- (2) 食料の安定供給の確保に向けた市の考え方は。

農地中間管理事業を推進し、安定供給を確保したい

答 農政課長

- (1) 農林水産統計調査によれば、26年の収穫量と20年からの推移は次のとおりである。

水稲は5千730トンで毎年若干減ってきている。

小麦は1千750トンで増えている。

大豆は643トンで変動はない。

販売額については、把握できていない。

- (2) 現在、農地中間管理事業を、国、県、市で推進している。農地の担い手への集積を進めることにより生産コストを減らし、作業効率を上げ、収量の増加を図れば、食料の安定的な供給を確保することができるものと考えている。

また、優秀な担い手農家の存在も、今後の食料の安定供給にとっては大変重要なことと考えている。